

市政刷新

【発行者】

福岡市議会議員 調崇史（自由民主党 福岡市議団）

2期目の最初の1年間の過ぎようとしています。

日々、暮らしに密接な様々の声を市政に届け、少しずつですが着実に実現しています。

市議会議員は市民生活と市政を結ぶ「橋」。

私は「近くにある、頑丈な橋」でありたいと思います。

福岡市議会議員 調たかし

正論を市政に！

福岡市議会議員（城南区）

調たかし

補助拡大！ 福祉バスの「負担増」問題

■ 老人クラブ・公民館の高齢者教室などで負担軽減へ

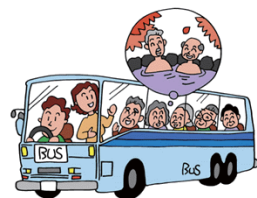
福岡市では高齢者や障がいを持った人たちなどの社会参画や外出支援などを目的に、老人クラブや障がい者団体などが貸切バスを使用する際の料金を助成する「福祉バス」制度を設けています。仮に老人クラブが40人程度で日帰りのバスハイクにでかけた場合、平成26年度までは市からの助成金だけでバスの賃料は賄えたので参加者の負担は弁当などの飲食代だけで済みました。しかし格安ツアーバスの事故を受けて国の指導により貸切バスの料金が引き上げられたことを受けて、平成27年度からは参加者に運賃負担が生じていました。

私は値上げの直前である昨年の2月議会の一般質問でこの問題を初めてとりあげ、負担軽減に向けた検討を要望。次いで9月議会の一般質問では、バス1台あたり平均で約2万6千円（40人利用で1人あたり約650円）の負担増になっていることを指摘し、利用者負担の軽減のため福岡市が助成金を拡充すべきと強く求め、当局から検討する旨の答弁を得ていました。

その後、所属会派である自由民主党福岡市議団の平成28年度予算要求に「福祉バスの補助金の拡充」が盛り込まれ、昨秋からは会派の協力も得て当局との折衝を続けてきました。これらが実を結び、平成28年4月からは値上げ分の約25パーセント相当額について福岡市からの助成が増額され、利用者の負担が軽減されることになりました。

■ 「実質負担ゼロ」を目指して

今回の助成増額については、当局が議会や市民からの要望にいち早く対応した点で一定の評価をすべきだと思っています。ただ、従前は福祉バスの利用者に運賃負担は生じていなかったことを考えると、是非もう一步踏み込んでもらいたかったという思いがあります。この問題については、平成29年度当初予算での「実質負担ゼロ」実現を目指して、引き続き会派の協力を得ながら強いこだわりをもって取り組んでいきたいと思っています。



予算成立 平成28年度予算が成立

■ 社会保障費の増大とどう向き合うか

3月25日（金）の本会議において、平成28年度当初予算が成立しました。福祉や子育て、教育など、市民生活に密接なサービスに関わる一般会計の予算額は7845億円で、平成27年度を0.3パーセント余り上回りました。明るい材料では、人口増などを反映して市税収入が2796億円と過去最高を更新したことがあります。市債の新規発行額も抑制され、一般会計と特別会計を合わせて391億円の縮減（平成28年度末で2兆2011億円に）を見込むなど、着実に償還が進められます。

一方、前年度比で大きな伸びを示したのが社会保障費で、前年度比で+4.7パーセントの2590億円となりました。これは生活保護費、高齢者や障がい者の福祉、医療・介護などの予算であり、一般会計の3分の1に迫っています。今後の高齢化の進展を視野に入れたとき、こうした社会保障費が引き続き増加の一途をたどることは明白であり、一般会計がカバーするその他の市民サービスを圧迫することが懸念されます。

こうしたなか平成28年度当初予算では、生活保護受給者の医療の適正受診に向けたモデル的取り組みや、生活習慣病の重症化予防など

「医療費対策」の新規事業が盛り込まれたほか、高齢者の生活支援・介護予防に関する新たな取り組みも進められます。普段の食生活など、健康に気をつかいながら年齢を重ねることこそ社会貢献のはじめの一步というのが、いまのご時世なのだと思います。

■ 子どもの貧困対策も

我が国でも年収200万円以下の非正規労働者が1100万人を超えるなか、経済的に困難を抱える家庭が増加したことを背景に、「子どもの貧困」の問題が全国的な注目を集めています。平成28年度予算ではこの問題への対応として、子どもの貧困に関する実態調査や「子ども食堂」の支援などの新規事業が盛り込まれました。

また、子どもの医療費助成についても10月から拡充されます。これらの事業の予算化をひとつのきっかけとして、社会全体で子どもを大切に育む機運を全市に広げていかなければならないと考えています。



■「自然減」は目の前に

昨年の国勢調査で福岡市の人口は神戸市を抜き、全国の政令市で第5位になりました。近年は年間約1万人のペースで人口が増え続けていますが、これは市内の出生者数と死亡者数の差(＝自然動態)がプラスであることよりは、むしろ転入人口と転出人口の差(＝社会動態)のプラスによるところが大きい。福岡市の人口は2035年頃まで増え続け160万人程度でピークを迎えると推計されていますが、自然動態だけを見るとほんの数年前の2020年代の初頭にはマイナスに、つまり死亡者数が出生者数を上回る局面に入る見通しです。それでも人口が増えていく理由は、他の市町村、他県などからの流入超過で人口が維持されるからです。

福岡市は全国の政令市で最も若者の割合が高い都市ですが、このような若い年齢構成の自治体の人口が「自然減」となることは、我が国の将来を展望したときに大いに憂慮すべき事態です。九州の各地から若者を集める福岡市だからこそ、責任ある少子化

対策を打ち出さなければなりません。

こうした自覚をもって人口の自然増に取り組むべきことを、昨年の12月議会の一般質問で主張しました。

■議会も行政も「結婚」をもっと論じるべき

少子化対策では、保育所の整備や子育て世帯への支援、雇用環境の問題など、幅広い取り組みが求められます。これらを前提としながらも、私が今回の質問で最も声を大にしたのは「結婚したくなるような施策」を、福岡市が打たなければならないということでした。その理由となるデータが1組の夫婦の最終的な出生子ども数の平均値(完結出生児数)です。沖縄返還・日中国交正常化の年である1972年が2.20人、1992年では2.21人、2010年で1.96人であるように、過去40年程でもあまり下がっていません。夫婦になれば平均2人の子どもを育てるのです。

福岡市が3年前に行った若者へのアンケートで「結婚していない理由」についての最も多い答えは「適当な相手に巡り合わない」▽

福岡市の20代～30代人口(平成27年8月現在)



が1位で41.4パーセントでした。20代と30代で男女の数を比べると、女性の方が1万6千人以上も多いなど、特徴的な人口構造であることも無関係ではないと思います。

今回の質問では、市内で開催される月間で500もの婚活イベントについて、信頼性の高いものの情報を市がまとめて積極的に広報する新事業を立ち上げることを提案し、当局は「検討する」と明確に答弁しました。これについては恐らく、そう遠からず実現するのではないかと思います。議会も行政も、少子化問題を論じるときに「人口より向こう側にある事象」、つまり保育所や子育て支援など子どもが生まれた後の対応に関してはしっかり目が向いていますが、実はより肝心であるはずの「どうやって人口に立ってもらうか」、つまり「いかに若者に結婚してもらおうか」という問題には全くと言っていいほど触れません。色々な価値観があるご時世であることは理解しているつもりですが、議会も行政も「結婚」についてはもっと正面から論じるべきだと思います。

地域活動 暮らしの環境づくりに取り組んでいます!!

過去数年間に渡って取り組んできた梅林中学校のグラウンド改修事業が1月末に完了しました。雨に極めて弱かったグラウンドの状態が改善されたと聞き、ほっとしました。母校の後輩たちが今まで以上に授業や部活動に励んでくれればと思います。

また、金山団地のご高齢の方々からのご要望で去年から取り組んできた金山駅前バス停へのベンチの設置については、3月25日(金)に完了見込みとなりました。ベンチを寄贈して下さった「花みずき通り商店会」と「日本総合住生活株式会社」に心から感謝したいと思います。



梅林中学校 グラウンド



金山駅前バス停 ベンチ設置イメージ



福博そうつく言

こども医療費の助成拡大と自己負担

福岡市では平成28年10月から、子どもの通院医療費の助成を現行の就学前から小学校6年生まで拡大することを決めました。これで通院医療費は0歳から12歳、入院医療費は0歳から中学校卒業までが助成の対象となります。一方で、今回の拡充に合わせて自己負担が導入されます。0歳から3歳まではこれまで通り無料ですが、就学前は月600円(一医療機関あたり)、小学生は1200円(同)となります。この点は大変残念でなりません。

福岡県は、県内の各市町村で子どもの医療費助成を拡充することを目的に、子ども医療費の2分の1を今年度から負担します。しかし、政令市である福岡市と北九州市については補助率を4分の1にとどめています。子どもに十分な医療を受けさせるための施策に、居住地で差をつける県の発想については全く理解ができません。私たち福岡市民も、公平に県税を負担していることを忘れてもらっては困るのです。福岡市への補助が他の市町村並みに2分の1であれば自己負担を導入せずとも済むのですから、今後とも県には対応を求めているかなければと思っています。

しらべ たかし

調 崇史 プロフィール

1978年 4月17日生 37歳

1978年 ● 福岡市生まれ

1991年 ● 七隈小学校卒業

1994年 ● 梅林中学校卒業

1997年 ● 修猷館高校卒業

2002年 ● 九州大学法学部卒業
TNCテレビ西日本入社

2010年 ● 同社退社

2011年 ● 福岡市議選初当選

2015年 ● 2期目の当選

現在、金山団地在住 妻と3女



www.t-shirabe.net/

調たかし 市政相談所

ぜひ、お立ち寄りください
〒814-0131

福岡市城南区松山2-5-5
志のぶビル201号

※市営地下鉄 金山駅から徒歩3分
七隈本町バス停から徒歩1分

TEL:092-834-9984

FAX:092-834-9983

mail:info@t-shirabe.net

調たかし

検索